

千葉県旭市（国内 44 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 6 年 1 月 29 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：肉用鶏（約 8 万羽）  
発生家きん舎の構造：セミウインドウレス鶏舎  
発生家きん舎の飼養形態：平飼い

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は台地上に位置し、周囲は田畑、養豚場、牧場等に囲まれていた。
- ② 当該農場の周辺では、本年 1 月中旬以降、本病の発生が複数例確認されており、当該農場の北西 700m には、国内 32 例目（千葉県 5 例目）の発生農場が存在している。
- ③ 当該農場は、セミウインドウレス鶏舎 11 棟、堆肥舎、事務所、倉庫棟で構成され、発生時、全ての鶏舎で肉用鶏が飼養されていた。発生鶏舎は、農場の西にある農場入口近くのセミウインドウレス鶏舎のうちの 1 棟（3 号鶏舎）であった。

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 農場長によると、発生鶏舎（約 1 万羽、通報時 56 日齢）における通常の死亡羽数は 0～2 羽であるところ、1 月 27 日の朝の見回り時に約 120 羽の死亡を確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。なお、死亡鶏は発生鶏舎内中央付近に散在して確認されたとのこと。
- ② 調査時、発生鶏舎の鶏は既に殺処分が終了していたが、その他の鶏舎では異状は認められなかった。

4 管理者及び従業員

- ① 農場長によると、当該農場には農場長を含め従業員が 4 名おり、うち 3 名が鶏舎内の飼養管理を行い、その他 1 名は出荷後の鶏糞搬出、鶏舎内消毒及び鶏舎外での作業等に従事していたとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場の入口には、関係者以外立入禁止を示す看板及び車両消毒設備は設置されていなかった。
- ② 農場長によると、従業員はいずれも農場敷地に居住しており、従業員が農場の衛生管理区域に立入る際は、農場内専用作業着と専用長靴に交換していたが、手指消毒は実施していないとのこと。また、外部業者（飼料運搬業者）が衛生管理区域に立入る際は、持参した長靴に交換しているが、作業着への交換と手指消毒の実施は確認していないとのこと。
- ③ 従業員が鶏舎内に立入る際は、鶏舎入口に設置された消石灰槽に踏込みし、鶏舎内用の長靴に履き替えているが、手指消毒は実施していないとのこと。
- ④ 当該農場のセミウインドウレス鶏舎は、平側の片方の壁面に設置された換気扇（北に面する）で排気を行っていた。もう片方の鶏舎壁面には窓（南に面する）があったが、ビニールが張られていた。なお、換気扇にはシャッターや防鳥ネットは設置されておらず、農場長によると、この時期、稼働していない換気扇が複数あったとのこと。その他、鶏舎内には、破損箇所や隙間が多数確認された。
- ⑤ 給与水には水道水を利用していた。鶏舎前室に設置された給水タンクはワクチン等を飲水投与する時にのみ利用しており、調査時は利用されていなかった。なお、発

生鶏舎内の給水タンクには蓋は設置されておらず、タンク内部でネズミの死体が確認された。

- ⑥ 飼料は飼料タンクから閉鎖系ラインで供給されており、飼料タンク上部には蓋が設置されていた。
- ⑦ 鶏糞は、オールアウト時にローダーで直接トラックに積み込み、堆肥舎まで運搬すること。なお、堆肥舎の入口は常に開放していたとのこと。堆肥舎内の完成堆肥は、近隣の農場から希望があれば自農場のトラックで配送していたが、地域で本病が発生した1月中旬以降、配送は行っていなかったとのこと。
- ⑧ 農場長によると、死亡鶏は鶏舎前室内の一角に貯めておき、1日1回、農場敷地内東側の空き地まで持って行き、重機で掘った穴に投入していたとのこと。投入後は消石灰を散布し、土をかけて埋却していたとのこと。
- ⑨ 近隣で本病が発生して以降は、日に3回鶏舎外周の噴霧消毒を実施していたとのこと。

## 6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場長によると、農場にカラスが飛来することはまれであり、普段は近隣の養豚場の周辺でよく確認すること。調査時、鶏舎上空で複数のカラスを認めた。
- ② 農場長によると、鶏舎内にはネズミをよく見かけるため、ネズミ対策として殺鼠剤を定期的に設置していたとのこと。調査時、発生鶏舎含め鶏舎内では複数箇所ネズミの齧り痕やネズミの糞を確認した。また、農場長によると、ネコが鶏舎内に侵入することもあり、時折、飼養鶏が食害に遭っていたとのこと。

(以上)